

群 教 七	G05 - 07
	平 17.225集

自分の表現を追求できる図画工作科の授業

－ みんなで試す学習で課題をつかみ、
自分の作品づくりで課題解決に取り組む子どもたち －

長期研修員 荒木 孝史

（研究の概要）

どのような授業を提供することができれば、子どもたちは自分の表現を深め、広げていくことができるのだろうか。本研究は、子どもたちが自分の作品をつくる際の課題を明らかにしながら、見通しをもって自分の表現を追求していく。そして、自分の思いを存分に表現することができる。そのような授業を目指し、みんなで試す学習「ためしてみよう」を取り入れた授業を実践し、その効果について検証したものである。

キーワード 【図画工作 表現 絵や立体に表す 試行錯誤 授業改善 学習過程】

主題設定の理由

多くの子どもたちは、絵をかいたり、工作をしたりといった表現活動に大変興味を示し、図工の授業を楽しみにしている。また、自分の思いを作品に表わすことにとっても熱心である。

しかし一方では、子どもたちの学習状況から、表現の深まりやその子らしさが表れるような表現の広がりが見られず、同じような作品づくりをしているととらえている教師が少なくない。

「興味をもち意欲的に取り組むが、表現が深まらない、広がらない」原因として構想を練ることの不足が考えられる。子どもたちは、自分の思いをどう表現していくか十分な見通しをもたないまま作品づくりを進めているのではないだろうか。

そこで、子どもたちが作品づくりの課題を明らかにし、見通しをもって自分の表現を追求していくことができる授業をつくらうと考えた。

図工の学習には、一人一人が自分の思いを大切にし、自分の表現を追求できるよさがある。しかし、ほかの人から刺激を受け、共に学びを深めたり、広げたりする場面が不足しがちになる。

この問題を解決するために共同製作を行うことが考えられる。しかし、共同製作の場合一人一人の力がどれほど発揮されるかというところに課題が残る。実際には、一部の子どもの考えに頼ってしまうことのようなこともあり、一人一人が自分の表現を追求していくには十分でない。

共に作品をつくることで、学びを深め、その学びを生かし、一人一人が自分の表現を追求できる

授業を考えた結果、学習過程の中に、みんなを試す学習「ためしてみよう」を取り入れることを考えた。

子どもたちは、「ためしてみよう」での学習活動を通し学び合うことで、表現の仕方を確かめられ、作品づくりへの課題をつかむことができる。

そして、自分の作品をつくる際の課題を確かめながら試行錯誤を繰り返すことで、一人一人が自分の表現を追求することができる。

一人一人が自分の表現を追求できるようになれば、作品づくりを通して自分の表現を深めたり、広げたりできるようになると考えた。

以上のことから、学習過程にみんなを試す学習「ためしてみよう」を取り入れることで、子どもたちが自分の課題をつかみ、自分の表現を追求することができることを、実践を通して明らかにしようと考え、本研究主題を設定した。

研究のねらい

学習過程にみんなを試す学習「ためしてみよう」を取り入れ、試行する過程を大切に学習を進めることは、自分の作品をつくる際の課題を明らかにした試行錯誤を繰り返すことにつながり、自分の表現を追求できることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

1 みんなで試す過程において、グループで試し

の作品をつくることで、子どもは、表現の仕方
を考えることができ、自分の作品をつくる時の
課題をつかむことができるであろう。

2 自分の作品をつくる過程において、自らの課
題を確かめながら作品をつくることで、子ども
は、課題を解決するための試行錯誤を繰り返し、
自分の表現を追求していくことができるであ
ろう。

研究の内容と方法

1 基本的な考え方

(1) 「自分の表現を追求できる授業」とは

子どもたちが自分の表現を追求できる授業とし
て、「どのような形や色を使うか考える」、「製作
の方法や手順を確かめ見通しをもち製作する」、
「表したい美しさが表現できているか確かめる」
といった学びが行われる必要があると考えた。

そこで、表現活動を通して、子どもたちが次の
ように学ぶことができる授業を目指した。

自分が表現したいものをどのような形や色
で、どのように構成し表すかを考え、自分の思
いにあった組合せを探ることができる。

どのような材料や用具を使い、どのような表
し方で表すかを考え、製作の計画を立てるなど
しながら製作の見通しをもつことができる。

自分が表現したい美しさに合う形や色を使っ
た構成ができているか、あるいは自分が表現し
たい感じを表すことができているかを確かめ、
判断することができる。

(2) 「自分の作品をつくる時の課題」とは

子どもたちが、自分の作品をつくるうえで解決
したい、あるいは解決する必要があると考え、つ
かむことができた課題を指す。

課題には、どのような作品をつくりたいか、な
ぜ作品をつくるのかといった作品づくりの目標に
関することと、どのように作品をつくるかといっ
た製作の仕方に関することがあると考える。

製作の仕方に関することとしては、どのような
形や色をどのように組み合わせるかといった形や
色の構成に関する内容、どのような表現の方法で
どのように表すかといった表し方に関する内容、
どのような材料や用具を使ってつくるかといっ
た材料や用具に関する内容が考えられる。

(3) みんなで試す学習「ためしてみよう」とは

表現の仕方を考え、自分の作品をつくる時の
課題をつかむために、グループを組んで試しの作
品をつくる学習で、学習過程の中にみんなで試す
過程を設け、以下のような点に留意をしながら授
業を行う。

[課題をたてる] [試してみる] [結果
を確かめる] 学習の場面を設ける。

複数の考えが得られ、まとまって作品づくり
ができるように3～5名のグループで試しの作
品をつくる。

アイデアを出し合いながらグループの課題
をたてることで、作品に表してみたい感じや試
してみたい表し方を考えられるようにする。

試した結果を振り返り、意見交換をしながら
自分が感じたことや考えたことを確かめる。

この学習を行うことで、子どもたちは、ほかの
人たちの考えやアイデアを知ることができると
ともに、実際に作品をつくることができ、作品の
様子から表現の効果を確かめることができる。

この学習を通して、子どもたちは、自分の作品
をつくる時の課題をつかむことができると考え
ている。

2 研究の方法

(1) 授業実践計画

対 象	六合村立入山小学校 第5学年 16名(特殊学級通級児2名を含む)
研究題材	いろ・色はんを重ねてすって - 美しい形や色の組合せを考えよう -
実施期間	平成17年10月20日～11月24日(全12時間)
抽 出 児	A：発想・構想の過程に多くの時間を費やす。 アイデアスケッチや試行活動には取り組ま ず、机に向かい考え込んでいる時間が長い。 グループでの学習経験を基に、自分の課題を 明らかにし試行活動に向えるようにすること で、表現の結果を確かめながら製作を進めら れるようにしたい。 ----- B：まじめに取り組むが、あまり自分の考え を表すことがなく、いろいろな表し方を試み 様子が見られない。複数の組合せを試すこ とができるようにして、表した結果を見比べ たり、違いを確かめたりしながら、自分の思 いに最もよく合う表し方が見付けられるよう にしたい。

(2) 検証計画

	検証の観点	検証方法
見 通 し 1	みんなで試す学習を取り入れ、グループで試しの作品をつくることで、どのような表現ができるかを確かめられ、自分の作品をつくる時の課題をつかむことができるか。	・活動の観察 ・発言内容 ・学習メモ ・振り返りカード ・グループで考えつくった作品
見 通 し 2	自らの課題を確かめながら作品をつくることで、課題を解決するために試行錯誤をくり返すことができ、自分の表現を追求することができるか。	・活動の観察 ・発言内容 ・学習メモ ・振り返りカード ・自分で考えつくった作品

研究の展開

1 題材名 「いろ・色はんを重ねてすって - 美しい形や色の組合せを考えよう - 」

2 題材の考察

(1) 設定の理由

この題材では、多版多色の表現方法を使う。

版画の表現は、下絵づくり、彫り、刷りの段階があり、自分の作品づくりの課題に合わせて、図案、彫り方、刷り方それぞれに課題の解決を図るための工夫を考え、試すことができる。

多版多色の表現では、版ごとの形や色、その組み合わせ方を変えることによって、作品の様子に変化を与えていくことができる。そのため版を刷る過程で自分の思いに近付くための表現の工夫を試みることができる。

学習テーマを「美しい形や色の組合せを考えよう」とすることで、形と色、その組合せに着目でき、どんな形や色の組合せを美しいと感じるか考えを巡らせながら、自分のとらえた美しさについて確かめていくことができる。

この題材は、作品づくりの課題をつかみ、試行錯誤を繰り返しながら表現を追求するのに適した題材であると考えられる。

(2) 児童の実態

これまでにかかわった子どもたちの作品づくりの様子から、次のような特徴を見ることができる。

見通しをもち、試行錯誤を繰り返しながら製作する子ども。作品づくり全体の構想をもち、工夫を加えながら製作する様子が見られる。

製作を進めながら構想を深める子ども。試行錯誤を繰り返しながら徐々に構想を固め完成に向かう様子が見られる。

試行錯誤することが少ない子ども。製作の見通しをもつと、あまり試行することなく製作を進める様子が見られる。

考え込む時間が長く製作がはかどらない子ども。机に向かい考え込むことが多く、あまり試行することなく製作を進める様子が見られる。

このような作品づくりの様子から、子どもにより構想の仕方や深まり具合、試行活動への取り組み方に違いがあることが分かる。

どのような表現ができるかを試し、確かめながら作品をつくることのできるようにするため、「みんなで試す」過程と「自分の作品をつくる」過程のねらいを明らかにし、課題を解決するための試行錯誤をくり返せるようにする必要がある。

3 目標及び評価規準

(1) 目標

自分の思い描いた美しい形や色の組合せを版画に表す。

(2) 評価規準

おおむね満足できる状況	十分満足できる状況
【造形への関心・意欲・態度】	
・形や色を組み合わせながら、自分の思いを版に表す楽しさを味わおうとする。	・形や色の組合せを工夫することで、自分の思いを自在に表現できることに関心を示し、試すことに意欲をもつ。
【発想や構想の能力】	
・自分の表したい作品のイメージをもち、形や色の組合せ方を考える。	・形や色の組み合わせ方を変えたときの様子の違いを比べながら、形や色の組み合わせ方を考える。
【創造的な技能】	
・用具の使い方を確かめ、彫り方、刷り方を試し、直しを加えるなどして表す。	・自分の思いを効果的に表現するためのいくつかの方法を見付け、試すなどして表す。
【鑑賞の能力】	
・参考作品や自分の作品を見て、自分が感じた美しさについて言葉にする。	・参考作品や自分の作品の比較を基に色の特徴や様子について言葉にする。

4 指導計画（全12時間予定）

学習 時間	主な学習活動（ ）	具体的な評価規準（抜粋）	支援及び指導上の留意点
1	<p>ねらいは子どもたちに示した学習のねらい</p> <p>題材の学習テーマについて知る。</p> <p>学習テーマ:美しい形や色の組合せを考えよう</p> <p>参考作品を鑑賞し、作品の中に見られる美しい形や色の組合せを見付ける。</p> <p>鑑賞のねらい:クレーさんの作品をみて、美しい形や色の組合せを見付けてみよう</p>	<p>□は観点、<>は評価方法</p> <p>関・意・態 作品に興味を示し美しい形や色を見付けようとする。</p> <p>鑑賞 形や色の特徴や様子について感じたことを見付けたことを言葉にする。</p> <p><活動の様子・発言内容></p>	<p>支援及び指導上の留意点 は研究上の手だて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美しい形や色の組合せについて考えることを中心に作品づくりを進めていくことを伝える。 ・ 形や色の組合せの美しさや面白さを感じやすい作品を用意し、形や色の組合せの美しさや面白さに着目した発見や意見交換ができるようにする。
3	<p>【見通し1】みんなで試す学習「ためてみよう」</p> <p>課題をたてる グループで、どのような形や色の組合せを試してみたいか話し合い、作品づくりの課題をもつ。</p> <p>話し合いのねらい:型紙や版画インクの色をもとに美しい形や色の組合せを考え、試してみたい組合せを決めよう</p> <p>試してみる 製作の手順を確かめながら、話し合っただけの決めたことを基に、グループで版画をつくる。</p> <p>製作のねらい:重ねずりの技法や製作の手順をたしかめながら、試してみよう</p> <p>結果を確かめる 作品をみて感じたこと、考えたことについて意見を交換し、自分の考えを確かめる。</p> <p>意見交換のねらい:完成した作品をみて見付けた美しさについて、みんなで伝え合い、自分の考えをたしかめよう</p>	<p>関・意・態 試してみたい組合せについて話し合い、製作への意欲をもつ。</p> <p>発想・構想 試してみたい組合せを考える。</p> <p><活動の様子・発言内容></p> <p>関・意・態 作品の仕上がりに気を配り作品をつくらうとする。</p> <p>技能 刷り上がりの様子を確かめながらいくつかの組合せを試す。</p> <p><活動の様子・発言内容・製作した版画></p> <p>関・意・態 作品を見て見付けた美しさについて話し合おうとする。</p> <p>発想・構想 形や色を組み合わせたときの特徴や様子の違いなどを確かめる。</p> <p><活動の様子・発言内容・製作した版画></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで試しの作品をつくることを伝え、版画の製作を通して、美しい形や色の組合せについて考えられるようにする。 ・ 円や三角形などの図形を印刷した型紙を用意し、短い時間で組合せを決め、製作を進められるようにする。 ・ 製作の手順を掲示し、製作の流れを確認しながら進めることで、製作の見通しがもてるようにする。 ・ 刷り上がりの様子を確かめながら、試しの作品をつくることで、表現の仕方を探ることができるようにする。 ・ 製作を振り返り、グループで意見交換をすることで、表現の仕方やその効果について確かめられるようにする。 ・ 気に入った作品を見付けたり、考えを発表したりすることで、自分の作品づくりへの課題をつかめるようにする。
7	<p>【見通し2】自らの課題を確かめ作品をつくる</p> <p>課題をたてる どのような美しさや感じのする作品にしたいか考え、自分が表したい美しさを表すための形や色の組合せを決める。</p> <p>試してみる 色の組合せや重ねる順序を変えるなど試行錯誤を繰り返しながら版画を製作し、自分の思いにあった表現を追求する。</p> <p>結果を確かめる 作品の刷り上がりをみてどのような表現の効果が得られたか確かめ、</p>	<p>関・意・態 自分の思いに合った作品を製作できるようにいくつかの組合せを試そうとする。</p> <p>発想・構想 刷り上がりの様子を確かめながら、色の組合せや重ねる順序、形の重なり方(版の置き方)を考える。</p> <p>技能 刷り上がりの様子を確かめた結果を基に、彫りを直したり、</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の作品をつくるときの課題を書くことで、自らの課題を確かめることができるようにする。 ・ 始めに版ごとに形を分けて考えたときと、版をすべて組み合わせた形から考えたときの違いを示し、版の分割について分かるようにする。 ・ 課題を見直す時間を設け、自分のたてた課題と実際の仕上がりを比べながら製作できるようにする。 ・ 机や材料、用具の配置を工夫し、製作

	<p>自分の思いに合った表現を見付ける。</p> <p>製作のねらい：美しい形や色の組合せを考え、いくつかの組合せを試しながら、自分の思いに合った作品をつくり上げよう</p>	<p>刷り方を変えたりするなどして表す。</p> <p><活動の様子・学習メモ・制作した版画></p>	<p>途中で彫りを直したり、繰り返し作品が刷れるようにする。</p> <p>自分の思いに合った作品1点を選び、表現の結果を確かめられるようにする。</p>
学習を振り返る	<p>学習を通して考えたことや取り組んだことを文にまとめたり、友達に話したりして、学習テーマについての自分の考えを確かめる。</p> <p>まとめのねらい：学習をふり返り、美しい形や色の組合せについて自分の考えたことをたしかめよう</p>	<p>発想・構想 美しい形や色の組合せについて自分の考えや取組を言葉にして確かめる。</p> <p>鑑賞 作品のよさや美しさを自分の言葉で表す。</p> <p><学習プリント・発言内容></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りのポイントを示した学習プリントを用意し、美しい形や色の組合せについて自分の考えを確かめることができるようにする。 ・ 作品と自分の考えを発表できる場を設け、人に伝えることで、自分の考えを確かめることができるようにする。

研究の結果と考察

- 1 みんなで試す学習を取り入れ、グループで試しの作品をつくることで、どのような表現ができるかを確かめられ、自分の作品をつくる時の課題をつかむことができるか

みんなで試す過程では、みんなで試す学習「ためしてみよう」を取り入れ、4人一組のグループを組み、試しの作品づくりを行った。子どもたちは、はがき大の版木3枚を使い、組み合わせる形や色を決めながら作品づくりを進めた。

はじめに子どもたちは、教師が用意した型紙を基に形の組合せを決めながら版をつくった。型紙は、円や四角形などの簡単な幾何形体を印刷したもので、下絵の用紙とともに全員に配付した。

抽出児A（以下A）のグループは、始めに一人一人版の下絵を考えた。次に、出来上がった下絵を見合い、その中から三つを選び出し、3枚の版木それぞれに下絵を転写していった（写真1）。

写真1 Aのグループが製作に使った版木



Aは、自分が考えた形を下絵にして伝えたり、どの色を組み合わせたいか自分の考えを話したりすることができた。

抽出児B（以下B）のグループでは、まず版を重ねたときに現れる形を決め、次にその形を表すのに必要となる形を一つずつに分け、それぞれを3枚の版木に写していった（写真2）。

写真2 Bのグループが製作に使った版木



Bは、型紙を使いながらどの形を組み合わせる作品にしていくかアイデアを考え下絵をかくことができた。

みんなが試す学習の2時間目、子どもたちは、彫り上がった版を使い、試しの作品を刷った。

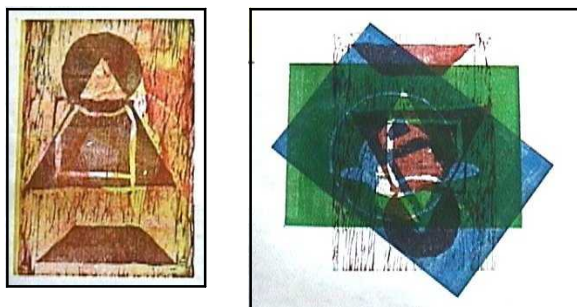
刷り紙には、版木より一回り大きな紙と八つ切りの紙を用意し、版をそろえて刷るだけでなく、ずらして刷ることもできるようにした。インクは、黒・青・緑・黄・朱・赤・茶を用意した。

Aのグループは、11枚の作品を製作した。3枚の版をそろえ刷ったものが5枚、版の向きや刷る位置をずらし重ね刷りしたものが6枚あった。

Aのグループでは、色の組合せをすべて変えて刷りを試している。1枚の版に2～3色の色をつけて刷る方法やインクを部分的につける方法を試す様子が見られた。

作品の刷りを進める中でAは、次に使う色を確認しインクを用意したり、パレンで作品を刷ったりしている。

写真3 Aのグループがつくった作品



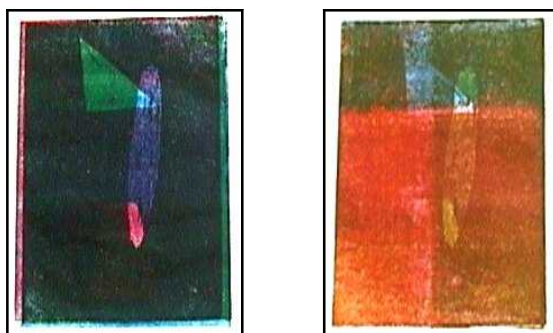
左は3つの版をそろえて刷った作品、右は版をずらして重ね刷りした作品

Aは、グループで試しの作品をつくることで、いろいろな色の組合せや刷り方を試してみることができ、色の組合せや刷り方を変えることで作品の仕上がりが変わることを実感した(写真3)。

Bのグループは、6枚の作品を製作した。版をそろえて重ね刷りした作品が5枚、版をずらして刷ったものは1枚だった。

Bのグループでは、1枚の版に2色の色をつけて刷る方法を取り入れたたり、インクの濃さを調整しながら刷ったりといった試みを行っていた。

写真4 Bのグループがつくった作品



右の作品では、1枚の版に2色の色をつけて刷る方法を取り入れている。

Bは、グループで試しの作品をつくったことで、いろいろな色の重ね方があることやインクの濃さを変えると刷り上がりの様子が変わることを確かめることができた(写真4)。

みんなで試す学習の3時間目、製作した結果を確かめ意見を交換する中でAのグループは、重ねた形がどのように見えるかを話題にしている。

Aは、作品を見ながら「(形が)ぼやけててよく見えなくなってる。」や「おもしろい形に見える。」などの発言をしている。

Bのグループでは、組み合わせた形がよく見えるか刷りの様子を確認、色の組み合わせ方について意見を交わしている。

Bは、教師の問いかけに対し、気に入った作品を示し、「いろいろな色が重なっていて、なんかきれいだから。」と選んだ理由を話している。

みんなで試す学習の最後に子どもたちは、グループの作品の中で気に入った1点を選び、選んだ理由を発表し合った。

Aは写真5の作品を選び、「色がカラフルで、形がよく写っている。」と選んだ理由を上げている。

Aのグループでは、版を重ねることで現れた形に着目した意見の交換が中心だった。グループでの発言や発表から、Aは、作品をつくり結果を確かめる中で、形の写り方に多く目を向けていたことが分かる。

試しの作品づくりを通して版の置き方や色の組合せ、インクのつけ方を変えるなどいろいろな工夫を試してみる取組を通じて、Aは、形がよく写るにはどうすればいいかについて考え、表し方を確かめることができたと考えられる。

Bは写真6の作品を選び、「いろいろな色が混じっていて、とてもきれいに見える。」と選んだ理由を話している。

作品の選択や発言からBは、色を組み合わせることで現れた色の変化に興味を示していることが分かる。

Bのグループは、試しの作品づくりを通し色の組み合わせ方やインクの濃さを考え試している。このことから、Bは、色の組合せや色の濃淡を変えることで自分の思いに近付ける表現ができることに気づき、表現の仕方や効果を確認することができたと考えられる。

自分の作品を製作する過程に入り、どのような作品にしたいかを確かめたところ、Aは、「形の美しさを作品にする。」と書き、Bは、「いろいろな色を組み合わせるときれいな作品にしたい。」と書いている。

写真5 Aが選んだ作品

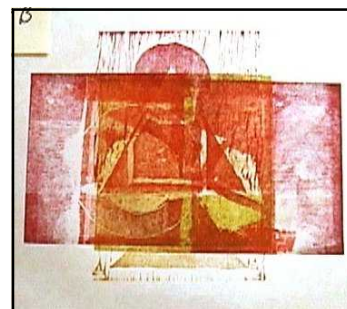


写真6 Bが選んだ作品



このように2名の抽出児は、グループで試しの作品をつくる中で、形の表し方や色の組み合わせ方、表したときの効果など、どのような表現ができるのかを確かめることができた。そして、作品づくりや話を重ねる中で、「形の美しさ」や「きれいな色の組合せ」などに目を向けることができ、自分の作品をつくる時の課題をつかむことができた。

以上のことから、みんなで試す学習を取り入れ、グループで試しの作品をつくることによって、子どもたちは、どのような表現ができるかを確かめることができ、自分の作品をつくる時の課題をつかむことができると考えられる。

2 自らの課題を確かめながら作品をつくることで、課題を解決するために試行錯誤を繰り返すことができ、自分の表現を追求することができるか

自分の作品をつくる過程で子どもたちは、教師が示した製作のねらいを受け、自分の作品づくりを進めた。

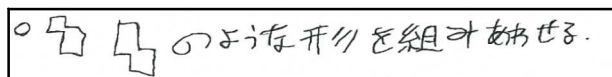
作品のアイデアを考えたあと子どもたちは、どのような作品をつくりたいか、自分の作品づくりへの課題を確かめた。製作を進める間、授業のはじめにこの課題を確認し、必要に応じて修正や書き込みを加えながら作品をつくった。

(1) 抽出児Aの追求

Aは、どのような美しさを作品にしたいかという問いに「形の美しさを作品にする。」と書き、どのような感じのする作品にしたいかに対して「おもしろい感じにしたい。」と書いた。

そこで、それはどんな形や色を組み合わせれば表すことができるか確かめたところ資料1のように考えを書いた。

資料1 Aが考えた美しい形の組合せのアイデア

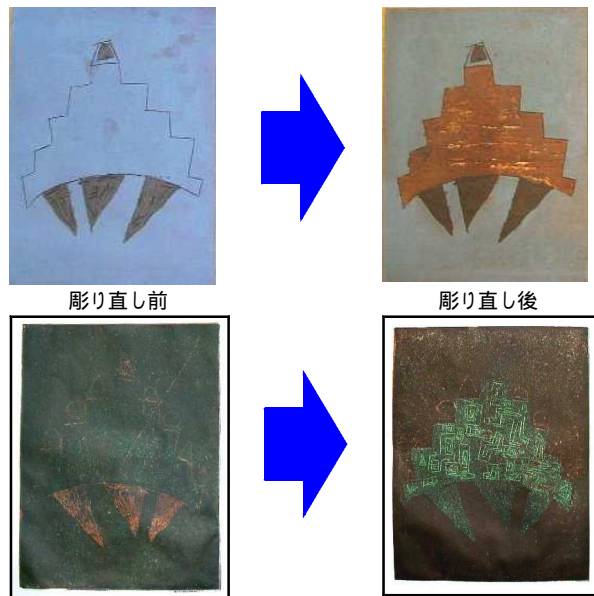


Aは、8枚の作品をつくり、7通りの色の組合せを試しているが、作品の枚数を重ねるうちに、色の組み合わせ方により、画面の中央部に表した模様(資料1に示した考えを取り入れた部分)がはっきり現れないことがあると分かった。

そこでAは、模様をはっきりと表すために版を彫り直すことにした(資料2)。

彫り直し後の作品は3枚あるが、どれも模様をはっきりと現れた作品に仕上がった。

資料2 課題解決のためのAの取組(彫り直し前後の比較)



第9・10時2枚目
(全作品の3枚目)

第11・12時1枚目
(全作品の6枚目)

上段：彫り直しによる版木の変化の様子、下段：彫り直す前の作品と彫り直したあとの作品。左の作品ではよく見えなかった形(模様)が彫り直し後には、はっきりと現れている。

Aは、まず自分が表したい形がより美しく見える色の組合せを見付けるため、幾つかの組合せを考え、試している。

ところが、色の組合せを変えるだけでは、自分が大切にしている形(模様)を十分に表現できな

写真7 Aが大切にしたい形(作品部分)



いと考え、形がはっきり見えるようにするには、版を彫り直す必要があると判断した。

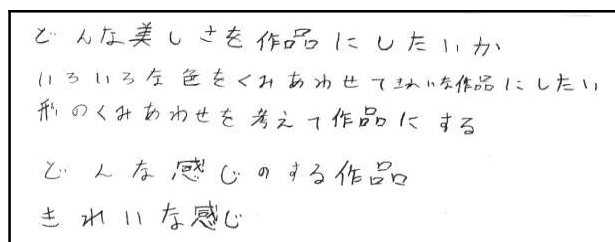
Aは、版を彫り直すことで大切な形を表すことができた(写真7)。

学習を振り返る過程でAは、学習プリントに「おもしろさを表すことができた。」と書いている。

(2) 抽出児Bの追求

Bは、自分の作品づくりへの課題を資料3のように書いた。

資料3 Bが書いた自分の作品を製作する上での課題



それはどのような形や色を組み合わせれば表せるかという問いに対しBは、「色は、きいろ、赤、青、みどりをつかう。形は丸と四角形をくみあわせる。」と書いている。

Bは、どんな色の組合せや重ね方にすると色の混じり合ったきれいな作品になるかを考え、作品をつくり始めた。

Bは、製作を進めるうちに、色を重ね合わせたときに目立たなくなる形があることに気付いた。

そこで、形がそれぞれに目立つようにするにはどうすればよいかを課題に加え、1枚ごとに色の組合せや重ね方を変え、刷り上がりの結果を確かめながら作品づくりを続けた(資料4)。

資料4 課題解決のためのBの取組



第9・10時 2枚目
(全作品の2枚目)
黄 茶 朱
Bは、重ねた色が似ていて、色が混じり合った感じが出ていないと判断した。



第11・12時 1枚目
(全作品の3枚目)
青 緑 赤
Bは、重ねた色が濃すぎて、青で刷った形が見えなくなってしまったと判断した。



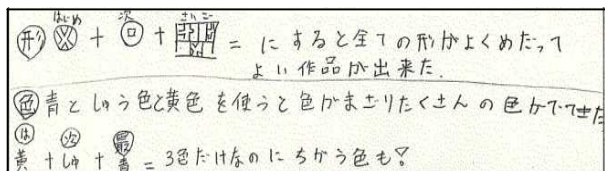
第11・12時 2枚目
(全作品の4枚目)
黄 朱 青
自分が目指した表現ができたとしてBが判断し、出品用に選んだ作品。「たくさんの光」という題名をつけた。

「黄 茶 朱」は組み合わせた色と重ねた順序を示す。

Bは、きれいな感じのする作品をつくるため、それぞれの形が目立ちいろいろな色が混じり合う美しさを表現することを目標に作品をつくった。

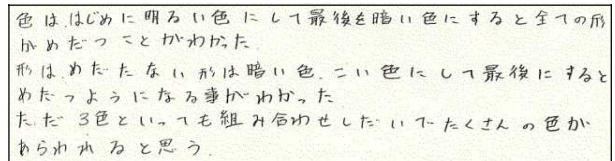
Bは、刷り上がりの結果を確かめ色の組合せや重ね方を変えながら刷りを繰り返すことで、自分の課題を解決することができた(資料5)。

資料5 自分の思いに最も合った組合せについて(Bの記述)



学習を振り返る過程でBは、自分が見つかったことを資料6のように書いている。

資料6 学習を振り返る過程でのBの記述



2名の抽出児は、自分の課題を確かめながら作品をつくることで、形がはっきり見えるようにするために版を彫り直す、色の混じり合ったきれいな感じを出すために色の組合せや重ね方を変えといった試行錯誤を繰り返すことになった。

形がはっきりと見えるようになるための表現を追求したAは、形の美しさにこだわり自分の表現を追求することができた。

それぞれの形が目立ち、色が混じり合ったきれいな表現を追求したBは、色の美しさにこだわり自分の表現を追求することができた。

以上のことから、自らの課題を確かめながら作品をつくることで、子どもたちは、課題を解決するために繰り返し試行錯誤することができ、自分の表現を追求することができると考えられる。

研究のまとめと今後の課題

自分の作品をつくる前に、グループで試しの作品をつくることで、子どもたちは、表現の仕方を探り、その効果を確かめることができる。

グループで作品をつくり、意見を交換することで、子どもたちは、自分の作品づくりに向けた課題をつかむことができる。

自らの課題を確かめながら作品をつくることで、自分がどのような表現を目指しているかを明らかにすることができ、課題の解決に向けた試行錯誤を繰り返すことにつながる。

表現の仕方を確かめられ、自分の課題を認識できることにより、子どもたちは、こだわりをもち自分の表現を追求することができる。

今後は、版画以外の題材でみんなで試す学習を取り入れたときの効果や他の学年の子どもたちを対象にしたときの授業について研究を重ねていく必要がある。

<参考文献>

- ・ジャン ピアジェ 著 滝沢 武久 訳 『思考の心理学』みすず書房(1968)
- (担当指導主事 田中 賢治)